

友人たち

これまで、私は確かに運や寿命に恵まれたかもしれないが、何より終生変わることなく付き合える友人たちに恵まれた。新生ロイヤルを立ち上げた

私の履歴書

江頭 匡一
えがしら きょういち

⑮

勉強家・四島氏 刺激に

佐田病院3代に命預ける

もう四十年来、変わることなく一緒にプレーをしてきた親友がいる。福岡シティ銀行頭取の四島司氏と佐田病院名誉院長の佐田増美氏だ。

きっかけは、四十数年前に入った福岡青年会議所。炭鉱主の二世や旧家の子弟が多かったなかで、なぜか気の合ったのが、

四島、佐田両氏ともう一人、当時建設業を営み、早くに故人となった牧野芳直氏だった。

き、「ゴルフは日曜日だけ」と決めた。他に趣味がないだけに、それからは毎週日曜のゴルフが待ち遠しく、楽しくて仕方がない。どんな出張でも土曜日には福岡に帰るようにした。それが明日の仕事の活力にもなった。最近でこそ、お互いの体調もあって回数はぐっと減ったが、

貴重な勉強の場である。四島氏は現代美術のコレクターとして知られ、情断旅行と称する今年で十六回目のシルクロード行など、多彩な趣味を持つ。交遊関係も広く、東京・大阪の財界人と知り合うきっかけはほとんど彼がつくってくれた。

三十代、四十代の若かったころ、全国の優れた経営者や知識人たちに啓蒙を受け、触発された。これらの人々との交流が、

四人で一緒にゴルフクラブを買いに行き、同じプロにつき、同じ日からプレーを始めた。牧野氏亡き後、建築家の善良人氏

四人で一緒にゴルフクラブを買いに行き、同じプロにつき、同じ日からプレーを始めた。牧野氏亡き後、建築家の善良人氏

四島氏がいると、せつかな性質の私は、不思議にゆったりした気分になれる。私にないものを持ち、自分を高めるきっかけをつくってくれた四島氏は、私

をにかけてくれる人も多い。毎週ゴルフ場への往復の車内は、いつも四島氏から経済や政治についてレクチャーを受ける

は、いつか佐田氏から経済や政治についてレクチャーを受ける

は、いつか佐田氏から経済や政治についてレクチャーを受ける

なってくれた。彼がいち早く変調を見つけて、「明日、ちょっと病院に来なさい」と言われたこともあった。亡くなった先代の佐田正人先生のところから大変お世話になっており、私の手術はほとんどが佐田病院だ。今では、佐田氏の長男、正之君が院長として三代にわたって私の体と命をみてくれている。



40年来の親友の四島氏と、互いの経営目標達成を祝う

IC(集積回路)リードフレームの世界的なメーカーを一代で築いた生粋の技術者だ。個性の強い会員の中でも、ひときわ自己を強く主張していた。

数年後には、互いに社外重役になり、毎月の役員会できたんのない意見を言い合うようになった。負けん気の強い私たちは、「どっちが早く上場するか競争しよう」とか、「五年後の経常利益を競争しよう」と言っている。互いに切磋琢磨(せつさたくま)した。

ロイヤルが上場したとき、お祝いに三井氏から大将が野戦で使う立派な鎧兜(よろいかぶと)の装束をいただいた。私にいつまでも前線に立って陣頭指揮をとってもらうというメッセージとともに、孤独に耐えるる強さをもち、

また四島氏の呼びかけで、九州の若手経営者が六三年に「八日会」を結成した。毎月八日に集まり、お互いに助け合って事業を拡大しようと、活発に議論が交わされた。

私も発足メンバーの一人だが、この会で特に気心が通じたのが二つ年上の三井孝昭氏(現三井ハイテック会長)だった。

まさにサムライの魂を持つ三井氏は、私にとって兄のように頼りになる、良き相談相手だ。(ロイヤル創業者取締役)